

## 令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施計画書（3年次）

### 1 研究の概要

#### 1 研究主題

地域連携機関との協働による未来のプロフェッショナルの育成  
～地域森林資源の循環利用に関するプロジェクト学習の展開～

#### 2 地域の現状と課題

上川地域は豊富な森林資源に恵まれ林業・林産業を基盤産業とする地域が多い。しかし木材需要量・木材価格の長期的低迷は、林業の生産性低下や林業・林産業の担い手不足を生み、森林資源循環利用サイクルも十分に機能していない。

#### 3 研究目的

本研究は、林業・林産業さらには地域コミュニティを持続的に発展させることができる将来のプロフェッショナルの育成を目指す。

##### (1) 目指す生徒像

- ・身に付けた専門的な知識・技術を他者に分かりやすく伝えることができる。
- ・地域コミュニティを理解し、他者との協働に取り組む意欲を持っている。
- ・科学的な視点での課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。

##### (2) 身に付けさせたい資質・能力

- ア 専門性の基礎・基本
- イ 勤労観、他者理解、コミュニケーション能力、創造力
- ウ 課題発見解決能力

#### 4 研究の評価指標

- ・林業及び林産業理解
- ・体験プログラムの構築及び開発
- ・関連産業に進学・就職する生徒割合を70%に増加

#### 5 評価方法

- ・年次進行における生徒の意識調査及び各事業満足度調査等（定性的評価）
- ・外部評価（定性的評価）
- ・ループリック評価（定性的評価）
- ・年次進行における進路希望状況調査（定量的調査）
- ・卒業生定着度の調査（定量的調査）
- ・生徒の関連資格取得状況調査（定量的調査）

#### 6 研究内容

- (1) 北海道大学・上川町との共同研究を継続、科学的な視点、課題解決方法を身に付ける。
- (2) 地域住民に林業体験ワークショップを継続開催し個人の専門性・コミュニケーション能力を高める。また、林業・林産業への理解をさらに深める。
- (3) 本学科卒業生の地域コミュニティへの定着度を調査・集計するとともに、在校生への各種調査結果を基に、本学科のカリキュラム改善に取り組む。

(別紙様式)

(4) 研究成果発表会への参加やクラウドを活用した情報発信をすることで、地域コミュニティへの理解を深め、更なる課題解決を行う意識を向上させる。

## 2 研究主題

地域連携機関との協働による未来のプロフェッショナルの育成  
～地域森林資源の循環利用に関するプロジェクト学習の展開～

## 3 研究の内容等

### (1) 解決に取り組む地域の課題

(現状と課題)

北海道の森林面積は 554 万 ha。総面積の約 7 割が森林に覆われている。森林は再生可能資源と呼ばれているが、これは森林の循環利用サイクル(植林・育成・伐採・利用・植林)が機能していることが大前提となっている。しかし、木材需要量・木材価格の長期的な低迷が、林業の生産性の低下を招き、現在このサイクルがうまく機能していない。戦後の拡大造林によって植えられたカラマツ人工林に加え、トドマツ人工林も主伐時期に入ってきており、この貴重な資源を循環させることが、林業・林産業を基盤とする上川地域の持続的な成長に必要であるが、林業・林産業の労働条件の厳しさは、担い手不足・高齢化を生み、森林資源の循環利用サイクルに影響している。

基幹産業である林業・林産業の衰退は人口減少・流出を招き地域コミュニティの維持・存続にも関わる大きな問題である。

(高校に対するニーズ等)

本校は、林業・林産業について学べる管内唯一の専門高校であり、関係機関からの担い手育成に対する期待は非常に大きい。しかし本校生徒は、入学後初めて林業に触れる生徒が多く、林業・林産業への理解度は非常に低い状況である。そこで平成 29 年に本校森林科学科と上川北部森林管理署、北海道上川総合振興局北部森林室、下川町との 4 者による包括的な連携協定を締結し、下川町内の森林等を活用した森林施業実習やキャリア教育を実践している。また、本校と林業・林産業事業体や公共職業安定所など、様々な立場の関係者が連携し、「旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会」を立ち上げるなど、産・学・官が一体となり担い手育成に力を入れている。

これらの活動の課題としては、それぞれの取組が単発での実施となり、関係機関相互の横の連携が希薄になることである。また、本校においては、各活動の目的が分かりにくく、全体共有ができずに行ってしまう受け身の活動となるが多かった。

### (2) 研究目的と目標

(研究目的)

本研究は、林業・林産業さらには地域コミュニティを持続的に発展させるこ

とができる将来のプロフェッショナルの育成を目指している。このために3年間で次のような生徒を目指し、資質・能力を身に付けさせる。

(研究目標)

ア 目指す生徒像

- ・身に付けた専門的な知識・技術を他者に分かりやすく伝えることができる。
- ・地域コミュニティを理解し、他者との協働に取り組む意欲を持っている。
- ・科学的な視点での課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。

イ 身に付けさせたい資質・能力

- ・専門性の基礎・基本
- ・勤労観
- ・他者理解
- ・コミュニケーション能力
- ・創造力
- ・課題を発見、解決する能力

ウ 研究の評価規準となる指標

- (1) 林業・林産業理解プログラムの開発 (ステップ1)
- (2) 林業・林産業体験プログラムの開発 (ステップ2)
- (3) 地域課題解決プロジェクト学習の展開 (ステップ3)
- (4) 学科関連産業に進学・就職する生徒の割合を70%に増加

エ 研究の評価方法

- (1) 連携・協働先へのアンケートの実施・分析 (定性的評価)
- (2) 地域みらい連携会議構成員による外部評価 (定性的評価)
- (3) 協働研究及び生徒発表会等における生徒相互によるルーブリック評価 (定性的評価)
- (4) 年次進行における生徒の意識調査及び各事業満足度調査等 (定性的評価)
- (5) 教員の意識変化を測るアンケート調査 (定性的評価)
- (6) 年次進行における進路希望状況調査 (定量的調査)
- (7) 卒業生の林業・林産業への定着度の調査 (定量的調査)
- (8) 生徒の関連資格取得状況調査 (定量的調査)

### (3) 研究内容

(内容)

ア 目指す生徒像に達成するためのカリキュラム・マップの公開

今年度は完成したカリキュラム・マップによる体系的な学習体制を整備する。また、マップを広く公開することで、本校森林科学科が目指す姿を「見える化」し、教育課程の可視化を図る。

イ 林業・林産業理解プログラムの開発 (ステップ1)

この学習プログラムによって、科目「農業と環境」・「森林科学」の中で、森林の役割や生態、地域林業・林産業の文化、歴史、地域での暮らしについて、視察研修などのフィールドワークを含めた事前調査、研究、発表を行い、地域林業・林産業について理解を深める。下川町、林業試験場、林産試験場、南部森林室な

ど様々な地域連携機関との協働研究で実施する。

ウ 林業・林産業体験プログラムの開発（ステップ2）

この学習プログラムは科目「森林科学」「森林経営」「林産物利用」「測量」「課題研究」「総合実習」の中で、下川町森林実習、高性能林業機械体験、林業・林産業でのインターンシップなどプロフェッショナルとの協働研究を通して、高度な知識や技術に直接触れる。また、プロフェッショナルによる講演会を開き、専門性を深める。

エ 地域課題解決プロジェクト学習の展開（ステップ3）

(1) 高大連携プロジェクト（1・2年）

1年は科目「農業と環境」「森林科学」、2年は科目「森林経営」「森林科学」の中で、北海道大学及び上川町による共同研究活動により、プロジェクト活動の進め方を学ぶ。また、知的好奇心を高め、調査研究による課題発見力を育成する。収集したデータは集計・考察・発表することで、論理的な課題解決能力を身に付ける。

(2) 林業・林産業ワークショップ（2・3年）

科目「総合実習」の中で日頃の専攻班活動で身に付けた知識・技能を活かし、林業・林産業を知らない一般人に対してワークショップを展開する。このため指導計画は、専攻班毎に策定を行う。他者に伝達することで、コミュニケーション能力を高めるほか、自己の知識・技能を高めることを目的とする。

(3) 森林資源の循環利用に関わるプロジェクト（2・3年）

科目「総合実習」「課題研究」の中で、学年毎の5つの専攻班に分かれ地域連携機関と協働しながら、森林資源の循環利用を推進するための方策について取り組む。

令和2年度プロジェクトテーマ

- ① 森林環境班 コンテナ苗の有効活用を図る
- ② 林業経営班 林業副産物を利用した資源活用の研究
- ③ 林産加工班 針葉樹の利用法を探る
- ④ 森林資源活用班 「音」を活用した木育活動の推進
- ⑤ 森林循環班 保育作業による疲労削減の研究

オ 各種プログラム・プロジェクトの報告（全学年）

各種取り組みについて、まとめ、報告会を行う。さらに森林学会など外部での成果発表に積極的に参加し、プレゼンテーション能力を高める。

(方法)

- ・地域みらい連携会議によって、よりの確な事業評価、内容修正に取り組む。
- ・ICTを活用した積極的な情報発信を今後も継続する。  
(Twitter・Facebook最新情報をリアルタイムで発信する。)
- ・全学年が参加している下川実習について、実習前後に意識・満足度調査を行い、林業・林産業における今後の理解・体験プログラムの改善に生かす。

- ・卒業生に対する就職後の定着率については今年度も継続調査し、さらに在校生からの意見を踏まえ、本学科カリキュラムの改善に取り組む。
- ・年間を通した林業・林産業における理解・体験プログラムを展開することで、引き続き地域産業への理解を深め、進学・就職する生徒の割合を上げていく。また、プログラムの内容は随時更新する。
- ・各種活動において、グループ活動を増やし生徒の自主性・積極性を磨く。
- ・プロジェクト専攻班による地域住民対象とした林業・林産業体験ワークショップをより充実した内容に改善し運営する。
- ・地域課題解決プロジェクト学習の成果を各種発表会、ワークショップ、ICT活用による情報発信等を通じて広く伝達する。

(教育課程上の位置付け)

- ・1年目は「農業と環境」、「森林科学」を中心科目と位置付けて展開する。特に森林に対する理解を学校農業クラブ活動におけるプロジェクト学習の流れで学ぶ。
- ・2、3年目は「課題研究」「総合実習」を主な中心科目として産業界、関連機関、教育機関等を協力機関として、研究を推進する。
- ・本研究の目的を達成するため、それぞれの分野におけるプロフェッショナル育成のために専門性の深化を図る。

第1学年 農業と環境 (4) 森林科学 (2) 測量 (2) 農業情報処理 (2)

第2学年 森林科学 (3) 森林経営 (2) 林産物利用 (2) 測量 (2)  
農業情報処理 (2) 総合実習 (2) 課題研究 (3)

第3学年 森林科学 (3) 森林経営 (3) 林産物利用 (2) 測量 (2)  
総合実習 (2) 課題研究 (2) ※ ( ) の数字は単位数

#### (4) 実践研究の規模

森林科学科生徒の全学年がカリキュラム・マップに基づき、学年進行で体系的に研究活動を実施する。

#### (5) 研究成果の普及方法

- ア 美深高等養護学校あいべつ校との林業・林産業体験学習会の実施
- イ 地域住民に対する林業・林産業体験学習会の開催
- ウ 各種成果発表での発表
  - ・日本森林学会高校生ポスター発表
  - ・北海道森林管理局主催北の国・森林づくり技術交流発表会
- エ 活動成果資料や動画をクラウド活用した情報発信

(別紙様式)

(6) 3年間の研究計画

研究年度	研究内容
平成30年度 (1年次)	ア カリキュラム・マップ作成により学習内容の可視化が進行。 イ 下川町森林実習の定着、新たに北海道大学・上川町との高大連携活動を開始。 ウ 森林科学科の Twitter と Facebook を用いた動画を含めた最新情報の発信、外部研究成果発表会への積極的な参加により生徒・教職員の意欲向上。
令和元年度 (2年次)	ア 上川町及び北海道大学との連携による上川林業セミナーを継続実施した。 イ 近隣市町村に関する調べ学習、ポスター発表を行い、生徒相互のルーブリック評価を行った。 ウ 地域で一般市民向けのワークショップを複数回実施した。また、他校の高校生や学生との交流を深めた。
令和2年度 (3年次)	ア 北海道大学及び上川町との共同研究について成果発表を実施した。 イ 本学科卒業生による現状報告会及び地域定着度を継続調査した。 ウ 実践研究3年間のまとめ及び人材育成に関する評価を行った。 エ 研究成果発表会への参加及びクラウドを活用した情報発信を行った。(地域向けプロモーションビデオ作成)

(7) 令和2年度の実践計画

実施月	実践内容
6月	「地域向けプロモーションビデオ」は、各種事業の活動風景や参加生徒・地域住民から感想、メッセージボードを書いてもらい動画を撮影し、地域の林業・林産業のやりがいや大切さを多くの人に伝える。このため、年間を通して細かく活動を記録する。 ア 旭川大学附属幼稚園第1回木育教室(森林資源活用班) (ア) 場所 本校前庭見本林 (イ) 科目 総合実習(3時間) (ウ) 連携・協働機関 年長園児49名・教諭6名 (エ) 内容 本校前庭の高木見本林散策や植樹、フィールドビンゴを行う。 イ 第1回地域みらい連携会議 (ア) 場所 本校多目的教室 (イ) 科目 総合実習(2時間) (ウ) 連携・協働機関 地域みらい連携会議構成員 (エ) 内容 本校におけるOPENプロジェクト3年次の計画報告を行い、指導助言を受ける。

7月	<p>ウ 美深高等養護学校あいべつ校交流学习①（3年生）</p> <p>(ア) 場所 本校育林棟・木材加工室</p> <p>(イ) 科目 総合実習（2時間）</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 美深高等養護学校あいべつ校</p> <p>(エ) 内容 林業・林産業についての理解を高めるため、高校生に対しワークショップを実施し理解の深化を図る。</p> <p>エ 山の仕事説明会（2年生）</p> <p>(ア) 場所 本校多目的教室・体育館</p> <p>(イ) 科目 総合実習（2時間）</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会</p> <p>(エ) 内容 地域の林業・林産業関係者から、現地作業に関する情報提供やインターンシップ選択に有用な情報を収集する。</p> <p>オ 林業技術現場体験学習事業</p> <p>(ア) 場所 士別市</p> <p>(イ) 科目 森林科学・森林経営（各3時間 計6時間）</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 北海道林業機械化協会・水産林務部林務局林業木材課・上川総合振興局南部森林室</p> <p>(エ) 内容 高性能林業機械作業現場の見学及び操作体験による林業就業へ向けた意識高揚を図る。</p> <p>カ 下川町林業体験実習（3年生）</p> <p>(ア) 場所 下川町</p> <p>(イ) 科目 森林科学・森林経営・総合実習・課題研究・測量・林産物利用（各2時間 計12時間）</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 下川町森林商工振興課・上川北部森林管理署・上川総合振興局北部森林室</p> <p>(エ) 内容 森林調査及び林業伐採現場見学、下川町森林組合との意見交換、森林管理署と林業施設の見学を行う。</p> <p>キ 旭川大学附属幼稚園第2回木育教室（森林資源活用班）</p> <p>(ア) 場所 本校前庭見本林</p> <p>(イ) 科目 総合実習（3時間）</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 年長園児49名・教諭6名</p> <p>(エ) 内容 枝打ち体験及びたたき染め体験、昼食会を行う。</p> <p>ク フォークリフト業務に係る特別教育（全学年）</p> <p>(ア) 場所 本校農場</p> <p>(イ) 科目 課題研究</p> <p>(ウ) 連携機関 北海道林業機械化協会</p> <p>(エ) 内容 フォークリフト安全講習を実施する。</p> <p>ケ 森林の市</p> <p>(ア) 場所 林業会館</p>
----	---

	<p>(イ) 科目 総合実習 (ウ) 連携・協働・協働機関 旭川地方木材協会 (エ) 内容 一般市民を対象とした苗木・木工品の販売及び木工品作成ワークショップを開催する。</p> <p>コ 永山太陽認定こども園木育学習（森林資源活用班） (ア) 場所 本校木材加工室 (イ) 科目 総合実習 (ウ) 連携・協働機関 永山太陽認定こども園所属小学生 10 名 (エ) 内容 小学生に木材工作ワークショップを実施し、地域産業への理解促進を図る。</p> <p>8 月 サ 下川町林業体験実習（2 年生） (ア) 場所 下川町 (イ) 科目 森林科学・森林経営・測量・林産物利用・総合実習・農業情報処理（各 2 時間 計 12 時間） (ウ) 連携・協働機関 下川町森林商工振興課・上川北部森林管理署・上川総合振興局北部森林室 (エ) 内容 下刈り・枝打ち実習及び除伐実習を行う。</p>
9 月	<p>シ 美深高等養護学校あいべつ校交流学习②（2 年生） (ア) 場所 本校育林棟・木材加工室 (イ) 科目 総合実習（2 時間） (ウ) 連携・協働機関 美深高等養護学校あいべつ校 (エ) 内容 林業・林産業について理解を高めるために高校生に対しワークショップを実施し理解の深化を図る。</p> <p>ス 旭川大学附属幼稚園第 3 回木育教室（森林資源活用班） (ア) 場所 本校森林資源室 (イ) 科目 総合実習（3 時間） (ウ) 連携・協働機関 年長園児 49 名・教諭 6 名・園児保護者 (エ) 内容 木琴作成を行う。</p> <p>セ 下川町林業体験実習（1 年生） (ア) 場所 下川町 (イ) 科目 森林科学・測量・農業と環境・農業情報処理（各 3 時間 計 12 時間） (ウ) 連携・協働機関 下川町森林商工振興課・上川北部森林管理署・上川総合振興局北部森林室 (エ) 内容 主伐後の地拵え現場及びコンテナ苗を見学し、植樹実習を行う。</p> <p>ソ 上川林業アップデート事業（3 年生） (ア) 場所 上川町</p>



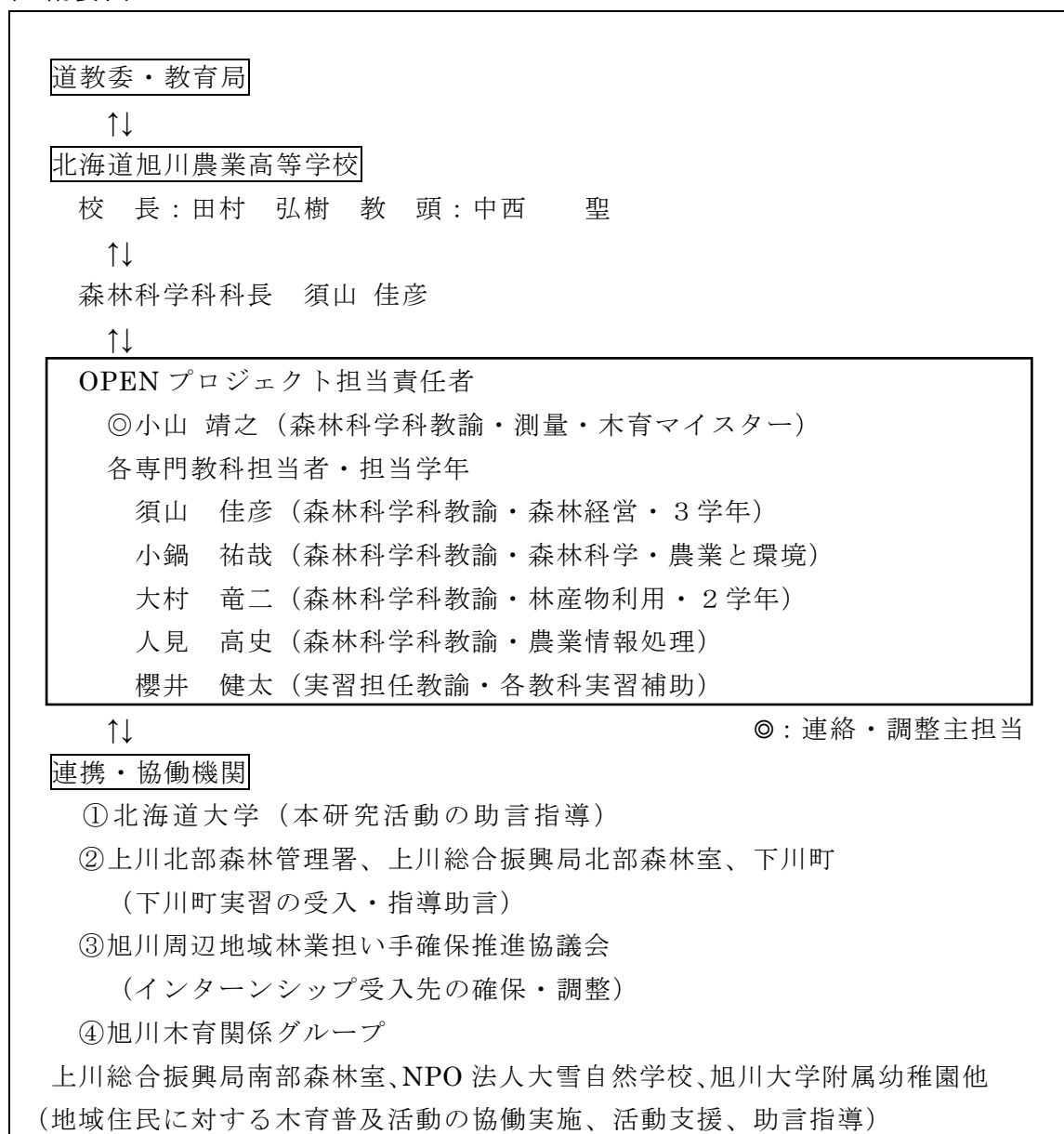
	<p>(イ) 科目 森林科学・林産物利用・森林経営 (各2時間 計6時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 北海道大学・上川町</p> <p>(エ) 内容 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 吉田俊也氏の指導による天然林施業についての調査・実習を行う。</p> <p>タ 旭川農業高校森林科学科生徒の現場見学 (1年生)</p> <p>(ア) 場所 本校多目的教室</p> <p>(イ) 科目 森林科学・測量・農業と環境 (各2時間 計6時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 旭川林業土木協会・上川中部森林管理署</p> <p>(エ) 内容 北海道森林管理局・森林管理署在勤者との懇談会及び十勝岳治山工事現場の見学を行う。</p> <p>10月</p> <p>チ 第44回全国育樹祭北海道2020</p> <p>(ア) 場所 札幌市きたえーる</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (6時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 北海道水産林務部森林環境局</p> <p>(エ) 内容 スロープトイの実演と公開を行う。</p> <p>ツ 北海道産業教育フェア</p> <p>(ア) 場所 札幌市新札幌光の広場</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (6時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 北海道教育委員会</p> <p>(エ) 内容 スロープトイの実演と公開を行う。</p> <p>テ 林業・林産業体験プログラムの開発 (2年)</p> <p>(ア) 場所 市内各種事業体</p> <p>(イ) 科目 課題研究 (18時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会</p> <p>(エ) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・インターンシップ受入可能企業の確保・調整</li><li>・インターンシップ受入機関・生徒事前訪問と実習対応、評価</li></ul> <p>ト 高等学校 OPEN プロジェクト全道ミーティング</p> <p>(ア) 場所 札幌市</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (3時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 北海道教育委員会</p> <p>(エ) 内容 地域プロモーションビデオ (林業・林業の良さや大切さを伝えるもの) の公開及び3年間の活動による生徒の変容や進路状況について報告する。</p> <p>11月</p> <p>ナ 旭川大学附属幼稚園第4回木育教室 (森林資源活用班)</p> <p>(ア) 場所 旭川大学附属幼稚園</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (3時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 全園児130名・教諭10名</p>
--	--

	<p>(エ) 内容 落ち葉プール遊びとお面作りを行い、焼き芋の試食を行う。</p> <p>ニ 第2回地域みらい連携会議</p> <p>(ア) 場所 本校多目的教室</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (2時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 地域みらい連携会議構成員</p> <p>(エ) 内容 インターンシップ報告及び北海道大学学生による研究紹介を行う。</p> <p>ヌ OPENプロジェクト講演会</p> <p>(ア) 場所 本校資源室</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (3時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 Gauzy Calm Works 代表 木村亮三 氏</p> <p>(エ) 内容 講演：技能五輪への参加と今後の旭川家具について</p>
12月	<p>ネ 第6回全国ユース環境活動発表大会北海道地方大会</p> <p>(ア) 場所 札幌市</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (6時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 独立行政法人環境再生保全機構</p> <p>(エ) 内容 プロジェクト活動発表</p> <p>ノ 旭川大学附属幼稚園第5回木育教室(森林資源活用班)</p> <p>(ア) 場所 本校前庭見本林・森林資源室</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (3時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 年長園児49名・教諭6名</p> <p>(エ) 内容 冬芽の観察及び木製フォトフレーム作り、活動の振り返りを行う。</p>
1月	<p>ハ 旭川 学生の科学展2021(森林資源活用班)</p> <p>(ア) 場所 旭川市科学館</p> <p>(イ) 科目 総合実習 (6時間)</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 サイエンスボランティア旭川 旭川市教育委員会</p> <p>(エ) 内容 一般市民向けにスロープトイの実演と公開を行い、他校高校生や学生と交流する。</p> <p>ヒ 「木」と「あそび」展覧会(森林資源活用班)</p> <p>(ア) 場所 北海道立旭川美術館</p> <p>(イ) 科目 総合実習</p> <p>(ウ) 連携・協働機関 北海道立旭川美術館</p> <p>(エ) 内容 木の造形物を集めた展覧会に作成したスロープトイを長期間(1月～3月)に渡り展示し、多くの市民に見てもらおう。</p> <p>フ 第3回地域みらい連携会議</p>

	<p>(ア) 場所 本校多目的教室 (イ) 科目 総合実習 (2時間) (ウ) 連携・協働機関 地域みらい連携会議構成員 (エ) 内容 ・本年度実施状況の報告 ・活動の進捗状況報告 ・今後継続し活動を行う上での課題整理</p> <p>2月 へ 林業・木材産業就業セミナーin旭川農業高校(1・2年生)</p> <p>(ア) 場所 本校体育館 (イ) 科目 総合実習 (2時間) (ウ) 連携・協働機関 旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会 (事務局:上川総合振興局産業振興部林務課) (エ) 内容 協議会:林業・林産業の重要性や意義等の情報提供 各企業:概要等の個別説明会を実施</p> <p>ホ 北の国・森林づくり技術交流発表会での事例報告</p> <p>(ア) 場所 北海道大学 (イ) 科目 総合実習 (6時間) (ウ) 主催・協働機関 北海道森林管理局 (エ) 内容 プロジェクト活動について、事例報告を行う。</p>
3月	<p>マ 今年度各種事業報告会の実施・実施報告書の作成・提出 ミ 日本森林学会高校生ポスター発表</p> <p>(ア) 場所 未定 (イ) 科目 総合実習 (6時間) (エ) 内容 本校でのプロジェクト活動についてポスターセッション形式で報告する。</p>

#### 4 研究組織

##### (1) 概要図



##### (2) 校内研究担当者

職名	氏名	担当教科・分掌等
校長	田村 弘樹	
教頭	中西 聖	
教諭	◎小山 靖之	森林科学科 (測量) ・木育マイスター
教諭	須山 佳彦	森林科学科 (森林経営) ・森林科学科長
教諭	小鍋 祐哉	森林科学科 (森林科学・農業と環境)
教諭	大村 竜二	森林科学科 (林産物利用・農業情報処理)
教諭	人見 高史	森林科学科 (農業情報処理・農業と環境)

(別紙様式)

実習担任教諭	櫻井 健太	森林科学科 (各教科実習補助)
--------	-------	-----------------

(3) 連携・協働先

連携・協働先	具体的な連携・協働内容
ア 北海道大学農学部、上川町	ア 高大連携によるプロジェクト共同研究及び指導助言
イ 上川北部森林管理署、上川総合振興局北部森林室、下川町	イ 下川町との包括的連携協定を基に、さらなる先進林業・林産業への知識・理解を深めるため少人数体制による協働実習や視察を実施
ウ 旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会	ウ 各種事業体におけるインターンシップ受入先の確保。山の仕事説明会計画・実施
エ 旭川木育関係グループ (上川総合振興局南部森林室木育担当、旭川大学附属幼稚園、旭川家具職人他)	エ 地域の子供達・住民に対して木育を活用した林業・林産業への理解を深める普及活動の企画・運営を協働で実施

(4) 地域みらい連携会議構成員

所属・職名	氏名	備考 (専門分野等)
北海道大学大学院農学研究院教授	柿澤 宏昭	森林政策学研究室
下川町役場森林商工振興課 主幹	山本 敏夫	
上川総合振興局産業振興部林務課主幹	佐々木康郎	
A I S Uプロジェクト代表	小助川泰介	家具職人

5 その他特記すべき事項

特になし。
-------

6 研究のイメージ図

